

平成 22 年 12 月 22 日

神奈川県知事 松沢 成文 様
神奈川県教育委員会教育長 藤井 良一 様

社団法人 日本建築家協会 (J I A)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 和田 昇三
同 神奈川地域会 代表 森岡 茂夫

神奈川県立近代美術館鎌倉館存続の要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴県におかれましては、日頃より文化の継承に理解を示されていることに深く敬意を表します。又当協会の活動に格別のご理解を賜り、厚く感謝申し上げます。

ご高承のように、神奈川県立近代美術館鎌倉館は戦後まもない 1951 年、当時の内山岩太郎知事をはじめ多くの県民が、荒廃した日本に文化を築くことによる復興を志し、鶴岡八幡宮の協力を得て境内に建設された、日本では最初の、世界的に見ても 3 番目といわれている近代美術館で、日本の美術界に大きな役割を果たしてきました。当時気鋭の建築家によってコンペが行われた本館は、現代建築の巨匠ル・コルビュジェのもとで学んだ坂倉準三 (1901 - 1969) が入選して設計を行い、15 年後の 1966 年に増築された新館も同じく坂倉により設計されました。

展示室など主要部分を 2 階部分において中庭を囲む口の字型で構成した本館のピロティといわれる 1 階のテラスに佇みますと、池から立ち上がる沓石に載る柱や、天井に揺らめく反射した水面の光、1 階壁に使われている大谷石が目に入ってきます。渡り廊下から新館の展示室に導かれると、サッシュで遮られることのないサスペンデッドガラスの大きな開口部から池、本館、森がのぞまれ、外部の景観と一体となった展示空間を感じることができます。また外観は、本館の白い箱を持ち上げた明快な量塊的構成に対して、新館は暗褐色の耐候性高張力鋼の梁柱を積極的に表した真壁の構成で、近代主義的表現と日本的表現とのみごとな対比となっています。この姿から 50 年代、60 年代の先端に行くモダニズム建築の中に日本固有の建築要素の融合や自然環境との調和を試みた坂倉の設計理念が伝わってきます。

日本建築家協会では 25 年以上に亘り長く地域環境に貢献し、風雪に耐えて美しく維持され、社会に対して建築の意義を語りかけてきた建築物を表彰する「JIA25 年賞」を 2006 年この鎌倉館に贈り、近代建築の保存を提言する世界的な組織である DOCOMOMO Japan も「日本の 20 選」(1999 年に本館、2007 年新館追加認定) に選定いたしました。2004 年には鎌倉市が制定し鎌倉市民が選考する「景観づくり賞」がこの建物に関わる市民団体 (近美 100 年の会) に贈られ、市民からもこの建物が鎌倉にとって景観上大切な建物と評価をされている事がうかがえます。長い歴史を持ち日本文化を代表する鶴岡八幡宮と、国内はもとより世界的にも高い評価を得てきた現代の名建築が見事なまでに調和している環境は他に類を見ず、今や古都鎌倉にとって欠かすことができない風景になりました。

現在新館は建物の一部劣化により休館中となっておりますが、修繕措置が施されないまま放置されております。建築は使い続けることで生き続けます。今後この鎌倉館に充分なメンテナンスを施すなど、敷地返還期限とお聞きしている 2016 年を超えてもなお、この名建築が存続し続けることについての行政的配慮をお願いする次第です。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会、同神奈川地域会は、神奈川県立近代美術館鎌倉館本館、新館の存続について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具